

象観測データとの対応の統計解析を行い、鉛直風擾乱の活動度と米子の地上風との間に強い相関のあることを見いだした。この結果は、MUレーダーで観測された鉛直風擾乱が西方数百 km に位置する中国山地の山岳効果で励起された地形性重力波（山岳波）であることを立証し

たものと言える。

これらの研究結果は、今後の更なる観測解析に向けての第一歩であり、将来の進展が大いに期待される。よって日本気象学会は本論文に対し今年度の山本・正野論文賞を贈るものである。



E.N. Lorenz 教授が京都賞を受賞

稲盛財団は、第7回（1991年度）京都賞基礎科学部門の受賞者として、気象力学の基礎を固め、また決定論的カオスを発見した Edward N. Lorenz (M.I.T. 名誉教授) を選んだことを発表した。記念講演会が11月11日（月）午後1時10分から、同会館において開催される。

ワークショップ講演題目：

E.N. Lorenz

“How Good Can Weather Forecasting Become?”

余田成男（京都大学理学部）

“Local Lyapunov Stability and Atmospheric Predictability”

国府寛司（京都大学理学部）

“Bifurcations of Homoclinic and Heteroclinic Orbits and Chaos”

澤田康次（東北大学電気通信研究所）

“Chaos in Thermal Convection”

津田一郎（九州工業大学情報工学部）

“Chaotic Computation in Biological Systems”

問い合わせ先：廣田勇または余田成男まで

（電話）075-753-3931 または 3932

編集後記：月日の経つのは早いもので、前回（1982年、第29巻4号）索引が作られてから、まもなく10年が経過します。現在、編集委員会では第29巻以降の索引の作成準備を進めています。様々な情報の氾濫の中、如何にして必要な情報を選択するかが重要になっていますが、それに役立つためにどのような索引が適切か議論を進めています。ご意見をお寄せ下さい。

さて、昔の目次を見直してみると、開店休業状態のコーナーがあることに気がきます。例えば、「質疑応答欄」です。これは、「読者から寄せられた質問（気象に関係

があればどんなものでも可）に対し、編集委員会が会員の中から適当と思われる方を選んで、回答を依頼して答えていただくものです。」が、特に質問の作成や依頼をしていませんので、開店休業状態になっています。

回答者の方の御名前は、記事に出ますが、質問者は匿名です。これは質問しやすいようにという配慮からで、「みんなは納得しているらしいが、どうも自分には分からない」とか、「講義（?!）で教えていてどうもうまくいかない。」とか、どんな時にも使えます。

質問の投稿もお待ちしています。

（中村晃三）